相良町

地形概況

駿河湾に面し、萩間川河口南部の海岸平野は数列の砂堆と後背湿地からなり、勝間田川河口南の低地も同様な性質をもつ。萩間川谷底低地も閉塞による低湿地が広く発達する。牧の原台地と周辺の丘陵、比木丘陵、河谷にそう小段丘もみられる。

地質概況

東部は泥岩砂岩の互層を主とする相良層群、西部は砂岩泥岩の互層を主とする掛川層群を基盤にして上部に牧の原礫層が堆積する。台地周辺には古谷泥層も露出し、石灰岩が女神山に分布するのが特徴的である。海岸砂堆で閉塞された低地は泥質層である。

気象概況

年平均気温は推定 15.8℃で、県内でも気温の高い地域である。日照時間も比較的多く、海陸風の循環によって年間を通じてしのぎ易い。年平均降水量は推定 2,250mm と県内のほぼ平均で、春から夏季にかけて全降水量の約半分に達する。

災害事例 地震

- 1944 年 12 月 7 日（昭和 19 年）東南海地震 M=7.9
  県中・西部で被害が大きかったが、当地でも相良で全壊 17 戸、半壊 194 戸、地頭方で全壊 19 戸、半壊 25 戸の被害があった。菅山は全半壊なし。震度は平田・波津・須々木・地頭方・新庄・堀野新田・遠渡で 5～6、坂井・高知・大知ヶ谷・大原・鬼女新田・落居で 5 である。
- 1854 年 12 月 23 日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
  全県下に大被害があり、当地でも相良では残らず潰れ、そのうえ市場町で出火し死者 30 人を出した。その他全壊は徳村で 10 戸,蛭ヶ谷で 16 戸、西山寺で 6 戸、須々木で 30 戸、松本で 23 戸、遠渡で 7 戸、新庄で 22 戸などであった。その他波津は大潰れ、地頭方・落居・地代は他所より多少軽かったが、それぞれに被害があった。震度は相良・徳・松本・波津で 7、蛭ヶ谷・須々木・新庄で 6～7、西山寺・遠渡で 6、地頭方・落居・地代で 5～6 であった。
- 1782 年 8 月 23 日（天明 2 年）
  天明 2 年、7 月 13・14 日大地震、町内の土蔵など数多く破損とあるが、天明の小田原付近の M=約 7 の地震と日付が異っているので疑問もある。

災害事例 津波

- 1960 年 5 月 24 日（昭和 35 年）チリ地震津波
  南米、チリ沖の大地震による津波で、日本の太平洋岸に被害を与えた。地頭方では満潮より約 1m も高かった。引き潮は平均潮位より約 2m 引いた。また萩間川河口では津波の高さ 1.4m である。
- 1944 年 12 月 7 日（昭和 19 年）東南海地震津波
  三重県沿岸に大きい津波被害があったが、当地では相良の港の防波堤が一時津波で

隠れたという程度であった。津波の高さは相良で 2m、地頭方で 1～2m、片浜で 1m である。

- 1854 年 12 月 23 日（安政元年）安政東海地震津波
  全県沿岸で津波被害があった。徳村では波により船 3 隻が打上げられた。津波の高さは福岡で 4.5～5m、波津で 5～6m、地頭方で 6.3m であった。古記録によると津波は地震後短時間で襲来した。
- 1707 年 10 月 28 日（宝永 4 年）宝永地震津波
  全県沿岸で被害があった。相良・福岡・波津は津波で破壊されて、ひと続きの村のようになったという。地頭方は 28 戸が流失した。津波の高さは相良で 5～8m、波津で 5～6m である。

災害事例 台風

- 1962 年 7 月 27 日（昭和 37）台風 7 号
  県中・西部で被害があった。相良町で川が逆流氾濫し、堤防が切断した。被害は全壊 1 戸、半壊 2 戸、床上浸水 67 戸、床下浸水 1,032 戸であった。

災害事例 冷害

- 1786 (天明 6 年)
  全国的な飢饉が続いていたが、気候が温暖な当地は、天明 5 年(1785)までは被害が軽かった。しかし、翌 6 年(1786)になると、春から秋にかけて雨天が続き、夏期冷害が重なり大凶作となった。